

Escort

エスコート

January
2025

第5号

CONTENTS



きらりNICEな企業
ゴコー電工株式会社



特集 NEW
次世代モビリティ関連支援



TOPIC 1 NEW
欧州次世代自動車市場へ販路開拓
「ドイツ展示会出展」を出展支援



TOPIC 2 NEW
愛知・岐阜・三重・静岡と連携して
大規模商談会を開催



TOPIC 3
SAPA・スーパー等向け「長野県産品商談会」で988件の商談を実施



TOPIC 4
「おいしい信州フード発掘商談会」
に過去最多のバイヤーが来場



TOPIC 5
国内最大級「2024国際航空宇宙展」
で有望商談を展開



TOPIC 6
AI・IoT技術の利活用向上を目指し
たAI活用研究会を開催



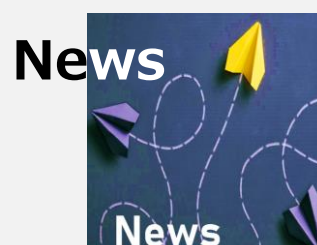
TOPIC 7 NEW
環境関連技術や環境配慮型商品に
関する「環境産業見本市」に出展



TOPICS 8
エア・ウォーター「地球の恵み
ファーム・松本」を視察



GX活動の支援 NEW
シリーズ1



**・イベント・セミナーピックアップ
・事業紹介**

自社の強みを磨き、強みを発信するチャンスくれたNICE

ゴコー電工株式会社

業 種：モータ及び特殊モータの設計開発・試作・製造
加工分野：航空・宇宙、自動車、半導体製造設備、ロボット、医療機器等

設 立：1983年 8月

資本金：2,715万円

所在地：諏訪郡富士見町落合字南原山13414-1

代表取締役社長：相場 はるか氏

従業員：65名

<https://www.goko-denko.co.jp/>



相場社長から取り組みについてお話を伺いました。

固有の巻き線技術でつくりこむ特殊モータ

ゴコー電工株式会社は1983年の創業以来、巻き線技術を強みとし、モータの設計・開発・製造に携わってきた。

同社のミッション「固有技術に依る特殊モータを製造し続けることで、社会の発展に貢献する。」にいう「特殊モータ」とは、機械では再現できない複雑な作業や技術によって生み出される高い占積率のモータのことで、他社と差別化された技能をもって少量品の量産、一点ものの試作・開発を中心に受注している。同社なら既製品にない高出力・小型・軽量のモータを任せられる、数量や仕様に柔軟に対応できる、モータの材料選定等開発段階からサポートを受けられる点などが評価され、顧客の信頼は厚い。その納入分野は、半導体製造装置、ロボット、医療、自動車関連など幅広く、近年では、脱炭素化の動きのなか、今後電動化が進むと予想される航空宇宙産業でも引き合いがある。



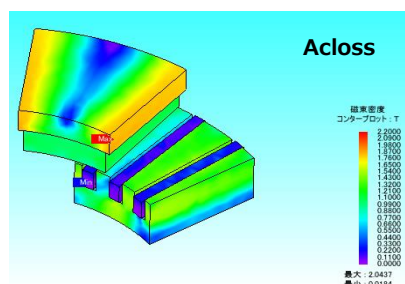
特殊モータ
(アキシアルギャップモータ)

65名の従業員の平均年齢は37歳と若い、自社の技術力への自負は強く、仕事へのモチベーションは高い。顧客となる大手メーカーが描く、電気の力で実現する豊かでクリーン社会に、自分たちのものづくりが役立つなら、与えられた課題の壁がどれほど高かろうととわれない。むしろ、これまでにない素材や工法に触れながら、お客様と共に世の中へ新しい価値を産み出せることは喜びである。「自分・会社・お客様・社会と、四方よしの関係を築き、特殊モータ業界No.1になる！」ことが同社のビジョンだ。

ものづくり補助金を活用し開発環境を整備

同社が自社技術を生かした「特殊モータ」を強く意識したのは、創業から9年経った1992年に現在地へ社屋を移転し、新設した頃である。先代社長が防衛関連のモータを受注した。求められたのは、過酷な使用環境であっても高い性能を発揮できる信頼性を担保すること。難題に挑戦し、乗り越えたことが、特殊モータメーカーとして生き残る道を拓いた。見出した光明に向かって同社は歩み始める。

先代社長の拓いた道を、その後を継いで先導した相場社長は、固有の巻き線技術を磨き、特殊モータを極めるうえで、2012年度から2023年度まで、ものづくり補助金を活用できたことは大きかったと話す。2012年度には、分割コアモータの超高出力等の技法開発と製品化を果たし、同じく2013年度にはトルク試験機を購入して、モータ製造における新試験システムを開発した。2016年度には、革新的なものづくり・商業・サービス開発支援補助金を受けて、3Dプリンタを導入した。これを活用して外部に製造を依頼していた物の一部を社内に対応できるようにし、特殊モータの開発リードタイムを大幅に短縮する。2023年度ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金では、設計・製造ノウハウのデジタル化を推進し、モータ開発の試作レス化に役立てた。また、電磁場解析ソフトJMAGを導入したことで、設計から解析までのスピードが格段に速くなった。「ものづくり補助金が、今日の私たちの取り組みの背中を押してくれました。」



JMAGによる電磁場解析

販路開拓でも手厚かったNICEの支援

同じく当機構の支援で、同社の特殊モータを売り込む場を設けられたことは、同社が新たな市場へ挑むにあたり力となった。

同社の巻き線技術とこれを生かした特殊モータは、今後航空宇宙市場にもフィットするはずだ、いや是非受注を獲得したい。そこで2021年に航空宇宙・防衛産業に特化した品質マネジメントシステムJISQ9100を認証取得。折しも同じ年にエアロマート名古屋2021への出展が叶う。そこで商談数は4件と少なかったものの、JISQ9100の取得から2年経過したエアロマート名古屋2023では、航空宇宙産業全体の盛り上がりも手伝って12件の商談があった。

次いで2024国際航空宇宙展では、名刺交換できた数は120を超え、同社製品の既存ユーザーの別部門や、これまで取引のない企業との接点も得た。同社ではこの商談会を機会に、航空宇宙産業分野の4つの案件が進行中だ。航空宇宙産業市場に足掛かりをつくった手応えを感じている。

世界最大級の産業見本市ハノーバーメッセ2023を皮切りに国際展示会にも出展を果たす。海外への初出展は、的を絞りきれず終わったが、慣習やものの考え方の違いに気づき、顧客とどう接点をつくるかについて学べたことは収穫だった。これを糧とし、ドイツ最大級の自動車部品見本市 [International Suppliers Fair \(IZB\) 2024](#) では、フォローアップすべき相手を明確にできた。また、社内語学研修でコミュニケーション力を高め、英語のホームページ作成等を通じて海外への情報発信強化にも力を入れている。

高性能モータで未来を切り開く

2024国際航空宇宙展（東京）



International Suppliers Fair (IZB) 2024（ドイツ）

アンテナが高く感度のいいNICEに期待しています

地方の中小企業にとって、海外で開催される大規模な展示会に出展することは容易ではない。「それに挑むチャンスを与え、私たちだけでは越えられないハードルを下げ、チャレンジしやすくしてくれたNICEには、本当に感謝しています。」

特殊モータで業界No.1になるために、相場社長は今後の取り組みとして2つ掲げる。まず海外販路の開拓である。日本の市場の縮小が予想されるなか、グローバルな市場でも自社の存在価値を示したい。ただし、海外へやみくもに出ることはしない。参入を目指す市場は、航空宇宙と水素エネルギーにまつわる分野だ。「自社の技術が生きる場所はどこか見極めながら、今後も海外展示会にはチャレンジしたいです。3年間は諦めずに頑張ります。」と熱意を込めて語った。

もう一つは、モータのユニット化への対応だ。同社は、得意とする巻き線技術をもって長年ステータAssyを手がけてきたが、顧客の要求は近年ロータAssy、モータAssyにまで及んでいる。さらに、インバータやドライバを付け、実際に動くモータとしてユニット化してほしいとの声も聞こえ始めた。これに応えるための知識、技能、技術を身につけ高めることが課題である。特殊モータを「つくる」ゴコーは今、「つくって、回す」ゴコーへ進化しようとしている。

「NICEには販路開拓ばかりでなく、JISQ9100内部監査員養成研修の機会もいただきました。引き続き皆さんのアンテナの高さと感度をもって、私たちへのチャンスの提供に期待しています。」

活用した支援制度等

- [JISQ9100内部監査員養成研修](#)
- [エアロマート名古屋2023出展事業](#)
- [2024国際航空宇宙展出展事業](#)

◆お問い合わせ

次世代産業部

TEL：026-217-1634 FAX：026-226-8838

E-mail：aerospace [at] nice-o.or.jp

- [生産財海外販路開拓支援事業](#)
- [中小企業海外販路開拓助成金](#)

◆お問い合わせ

マーケティング支援部

TEL：026-227-5013 FAX：026-228-2867

E-mail：matching [at] nice-o.or.jp

次世代モビリティ関連支援

経済産業省「ミカタプロジェクト」、EV分解・部品調査事業

1 自動車部品サプライヤー事業転換支援事業（経済産業省「ミカタプロジェクト」）

当機構では、令和5年4月から、経済産業省の「ミカタプロジェクト」の地域支援拠点として、自動車産業のCASE対応に伴う電動車部品の製造や軽量化などの技術革新に対応するため、県内自動車部品サプライヤーの事業転換や新技術の開発、県内製造業等の新規参入など、EVシフト等への事業構造の転換を関係機関と連携して伴走支援しています。

支援内容は、個別相談、専門家派遣、セミナーや実施研修の開催です。その一環で、以下の2つのイベントを開催しました。
※自動車部品サプライヤー事業転換支援事業の詳細はこちらから <https://www.nice-o.or.jp/support/support-48868/>

〈次世代モビリティ関連技術講座〉（岡谷市、令和6年10月23日）

令和6年度は、CASE対応に伴う新たなサプライチェーンに県内企業が参入していくために必要となる技術や設計生産システムなどの知識向上につながる講座「次世代モビリティ関連技術講座」を開催しています。第1回は「車両分解により見えてきたxEV技術の現在地と 2030年へ向けて自動車業界が執るべき技術戦略」と題して、名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授 山本 真義 様にご講演いただきました。会場には、電気自動車の部品も一部展示し、講演の中で解説いただいた情報をその場で手に取って見ることができ、EVの構造や搭載される部品の技術等への理解をより深めていただく機会となりました。



講演の様子



EV部品展示の様子

〈EV分解展示実地研修会〉（岐阜県、令和6年10月30日）

昨年度に引き続き、瑞浪市の三洋貿易(株)瑞浪展示場にて、「EV分解展示実地研修会」を開催しました。午前の部、午後の部の2部制で実施し、合計で33社、69名の皆様に参加いただきました。会場には、20車種の分解部品と5車種の完成車両が展示されており、実際に部品を手に取って、車種ごとに部品を比較したり、会場のスタッフからの説明を聞くなど、今後の技術戦略やEVへの参入に向け、貴重な情報収集の場となりました。



分解部品展示会場の様子

2 EV分解・部品調査事業

県内企業がEVの分解を通じて、構造や仕組みを理解し、技術的特徴を把握するとともに、自社の技術力の向上とEV部品の開発・製造に結び付け、EV市場への新規参入及び参入済み企業の技術向上等に繋げることを目的に、事前セミナーや分解講座（実地研修）を実施しました。

〈EV分解・部品調査事業事前セミナー〉（長野市、令和6年11月15日）

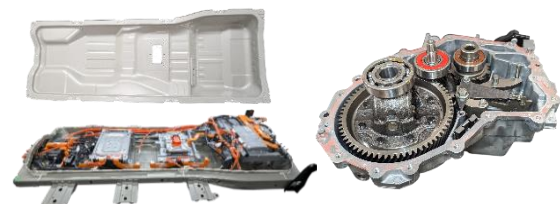
(株)日産オートモティブテクノロジー 電動パワートレイン開発部 主担 山北 真也 様より、「軽EV SAKURAのパワートレイン開発」と題して、EVシステム全体の構成要素や各要素の役割、日産・サクラの概要及び技術的な特徴等について、ご解説いただきました。併せて、日産・サクラの試乗会を開催し、参加者にEVを体感していただきました。



事前セミナーの様子

〈EV分解講座（実地研修）〉（長野市、令和6年12月20日）

日産・サクラの分解した主要部品（バッテリー、eアクスル等）と実車を展示し、実地研修の形式で、主にバッテリー及び減速機について、講師の方から技術的要素等をご解説いただきました。



日産・サクラの分解部品

ご相談・
お問い合わせ



企画連携部 担当：依田、小林（満）

TEL：026-227-5803

E-mail：automo[at]nice-o.or.jp

1 欧州次世代自動車市場へ販路開拓「ドイツ展示会出展」

マーケティング支援部

EV先進地域である欧州における次世代自動車関連市場への参入を図るため、ドイツにて開催された2つの展示会「[Automechanika Frankfurt \(AMF\) 2024](https://www.nice-o.or.jp/info/info-54651/)」（フランクフルト、令和6年9月10日～14日、4社出展）、「[International Suppliers Fair \(IZB\) 2024](https://www.nice-o.or.jp/info/info-54692/)」（ヴォルフスブルク、令和6年10月22日～24日、4社出展）に長野県パビリオンを設置し、グローバル展開コーディネーターが現地で出展支援を行いました。

AMF会期中に現地にてドイツ人による異文化研修を実施し、ドイツ人との商談・資料作成の仕方等において生の声が聞けたと出展企業には大変好評で有益な研修となりました。IZBはフォルクスワーゲングループの社内展示会という位置付けであるため、技術提案商談会に近い内容でフォルクスワーゲングループ企業のブースを訪問することにより、担当者との接点づくりが出来たことは大きな成果となりました。2つの展示会とも欧州・日本の大手Tier1企業が多数出展し、今後の欧州自動車業界参入への足掛かりを作ることができました。

Automechanika Frankfurt長野県出展企業情報はこちらから
<https://www.nice-o.or.jp/info/info-54651/>

International Suppliers Fair長野県出展企業情報はこちらから
<https://www.nice-o.or.jp/info/info-54692/>



AMF展示会での異文化研修の様子



IZB展示会での商談の様子

お問い合わせ 担当：金井、近藤

TEL：026-227-5013 FAX：026-228-2867 E-mail：matching [at] nice-o.or.jp

2 愛知・岐阜・三重・静岡と連携して大規模商談会を開催

マーケティング支援部

愛知県・岐阜県・三重県・静岡県及び長野県が連携し、5県の中小企業に受注機会の増大及び新規取引先の開拓を図る商談の場を提供することを目的に、日本最大級のリアル商談会「マッチングフェアinなごや2024」（名古屋市、令和6年10月17日）を[ウイंकあいち](https://www.nice-o.or.jp/info/info-55003/)で開催しました。

本商談会は平成18年から開催されていますが、長野県は本年度から初めて参加しました。当日は、中京圏の発注企業を中心に関東圏、関西圏を含めた131社、機械加工、プレス板金、金型加工等を得意とする受注企業が5県全体で393社参加しました。その中で長野県受注企業は55社が参加し、発注企業と活発な商談が行われました。

商談時間は1回25分間と短い時間ですが、商談できなかった発注企業との名刺交換タイムや受注企業PRボックスの設置、受注企業間の商談の場を用意し、幅広く交流できる機会を創出しました。

本商談会ではリアル商談会と共にオンライン商談会も併催し、10月24日～30日に発注企業とオンライン商談できるようにマッチングし、リアルおよびオンラインを合わせ5県全体で商談数1,074件（長野県163件）の商談が実施されました。初めて顔を合わす発注企業に対して、受注企業は自社技術を効果的にアピールすることができ、有意義な商談会となりました。



リアル商談会の様子

「マッチングフェアinなごや2024」参加募集の詳細はこちらから
<https://www.nice-o.or.jp/info/info-55003/>



お問い合わせ 担当：金井、飛沢

TEL：026-227-5013 FAX：026-228-2867 E-mail：matching [at] nice-o.or.jp

3

SAPA・スーパー等向け「長野県産品商談会」で988件の商談実施

マーケティング支援部

県内食品製造業者等の販路拡大と県産品の消費拡大を図るため、長野県営業局と連携し、県内を中心とした高速道路のサービスエリア・パーキングエリア（SAPA）、県内スーパー等に向けた事業展開を希望する事業者等を対象とした「第1回長野県産品商談会」（長野市、令和6年6月6日）を開催しました。

本事業は高速道路SAPAと県内外の小売・卸・フードサービス等のバイヤーを迎える商談会であり、当機構が直営で開催する展示商談会として、販路開拓に初めて取り組む事業者や商談会ビギナー向けに、販路開拓のファーストステップを学ぶ機会として位置付けられております。

本年は94者の生産者及び製造者が出展し商談を行いました。SAPA、小売業、国内商社、輸出商社、通販、外食、中食、加工製造業等のバイヤーが151者291名来場し、過去最高の来場者数を記録しました。

全出展者に対して会期当日の調査を行った結果では、988件の商談が行われ大盛況となりました。



商談会当日の会場内様子

第1回長野県産品商談会出展企業情報の詳細はこちらから

https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2024/10/01_naganoken_syoudankai.pdf



お問い合わせ 担当：大給、山崎

TEL：026-235-7246 FAX：026-235-7387 E-mail：hanro [at] nice-o.or.jp

4

「おいしい信州ふーど発掘商談会」に過去最多のバイヤーが来場

マーケティング支援部

県内食品製造業者の販路開拓を支援するため、長野県営業局と連携し、池袋・サンシャインシティ文化会館で「おいしい信州ふーど発掘商談会in東京」（東京都、令和6年8月28日）を開催しました。本事業は10年以上に渡り、当機構が直営で開催する展示商談会として、関東・首都圏市場への販路開拓のファーストステップ商談会として位置付けています。本年は95者の生産者及び製造者が出展し商談を行いました。地域産品に高い関心を示す小売業、国内商社、輸出商社、通販、外食、中食、加工製造業等のバイヤーが325者507名の過去最多の来場者を迎え、会期中に1,360件の商談が行われ大盛況となりました。

また、今年度は新たな取り組みとして、海外市場への販路開拓を支援するため、香港からバイヤーを3者招聘して事前マッチング制による個別商談会を開催し、出展事業者9者と10商談を行いました。

香港は関税や物品税等が無税のフリーポートであり、輸入食品に関する規制のハードルが低いため、海外展開のファーストステップとして最も取り組みやすい地域です。個別商談会終了後は招聘バイヤーを展示会場内に案内し、会場内の出展者と活発な商談が行われました。



展示商談会場の様子



香港バイヤーとの個別商談会の様子

おいしい信州ふーど発掘商談会in東京出展企業情報の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2024/08/pamphlet20240828.pdf>



お問い合わせ 担当：大給、山崎

TEL：026-235-7246 FAX：026-235-7387 E-mail：hanro [at] nice-o.or.jp

5

国内最大級の展示会「2024国際航空宇宙展」で有望商談を展開

次世代産業部（航空機産業支援センター）

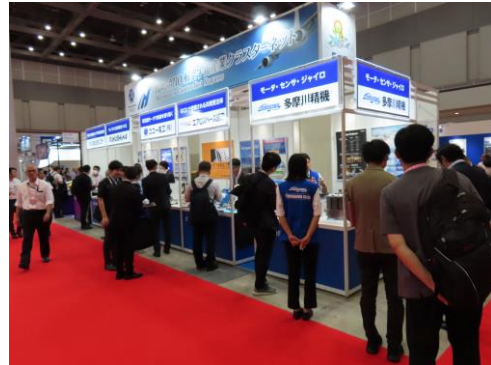
航空・宇宙・防衛産業の展示会である「[2024国際航空宇宙展](#)」（東京都、令和6年10月16日～19日、5社出展）が東京ビッグサイトで開催されました。当機構では「NAGANO航空宇宙産業クラスターネットブース」を設置し、出展準備や当日のサポート等を行いました。本展示会は「空宙で織りなす、広がる未来」をメインテーマとし、「SDGsへの航空宇宙産業の取り組み」、「COVID-19後の新しい輸送システム」、「新しい人間活動領域」の3つのサブテーマを掲げ、世界から23ヶ国／地域、663社・団体（共同出展含む）が集結して航空宇宙産業の力強い発展をアピールしました。

主催者発表による4日間の来場者数は、計37,168名と多くの来場者が訪れ、会場は熱気に包まれていました。

NAGANOブースには県内企業・団体5者（[羽生田鉄工所\(株\)](#)、[\(株\)フクシマ](#)、[ゴコー電工\(株\)](#)、[エアロスペース飯田](#)、[多摩川精機\(株\)](#)）が出展し、製品や技術力をアピールするとともに、海外航空機メーカーをはじめ、国内企業各社との商談が行われました。出展企業からは、「通常の展示会よりも3倍位多くの人と接することができ、有用な情報を入手できた」、「実のある展示会で、多くの商談もいただけた」、「航空、宇宙、防衛産業のトレンドを入手できた」等の感想が聞かれました。

NAGANO航空宇宙産業クラスターネットのページはこちらから

<https://acn-nagano.jp/>



NAGANOブースの様子

お問い合わせ 担当：原田

TEL：026-217-1634 FAX：026-226-8838 E-mail：aerospace [at] nice-o.or.jp

6

AI・IoT技術の利活用向上を目指したAI活用研究会を開催

上田センター

AI活用研究会では、AIを製品開発や現場改善に役立てることを目的に、専門家や先行企業による事例発表を通じて、最新のAI技術やビジネス応用例を学んでいます。また、具体的な課題に対し、参加者がケーススタディでAIモデルを構築し、実践的に取り組んでいます。

令和6年10月22日には、第3回目の研究会を開催しました。当日は、長野県工科短期大学校教授の山崎浩氏が「人工知能の研究」について講演し、「ニューラルネットワークと人間の思考には似た問題があり、その違いや限界を理解して活用することが重要」との助言をいただきました。

また、会員を画像処理グループとデータ処理グループに分けて討議を実施。画像グループでは、ラズパイを使って手書き文字の認識に挑戦し、次回は全員の文字認識を目指します。最終目標は、ラズパイで画像を撮影し、簡単なサンプルを判定するキットの作製です。一方、データグループは、過去のバイタルデータを基に翌日の体温・体調を予測する各自の検討内容を共有しました。最終的には、データから体温ステージと体調を推論するシステムを目指します。



グループ討議の様子

AI活用研究会の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/case/case-33548/>



お問い合わせ 担当：瀬田

TEL：0268-23-6788 FAX：0268-23-6673 E-mail：nice-ueda [at] nice-o.or.jp

7

環境関連技術や環境配慮型商品に関する「環境産業見本市」に出展

グリーンイノベーション推進部（グリーンイノベーションセンター）

長野県ゼロカーボン戦略で掲げた温室効果ガス排出削減目標の達成と持続可能な脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの普及や循環型社会構築の気運を一層高め、民間企業や活動団体、住民、行政など多様な主体が協働して気候変動対策に取り組む環境先進地域づくりを目指し、併せて、地元企業の環境技術の開発等による産業振興を図り産業間における地域内経済循環を進めるため、「[南信州環境メッセ2024](#)」（飯田市、令和6年11月23日～24日）が開催されました。

今年は環境メッセに先駆けて法人・団体向けに「[環境産業見本市](#)」（飯田市、令和6年11月22日）が初めて開催され、飯田市を中心とする企業等25者が展示を行い、来場者101名との積極的な情報交換等が実施されました。

当機構もグリーンイノベーション推進部で主催する、サーキュラーエコノミーイノベーション研究会の会員企業による取組事例等を展示し、飯田市を中心とした環境関連技術を有する企業と互いの活動紹介や意見交換を行いました。

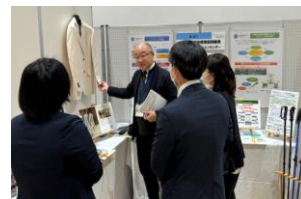
今後も地域経済・産業振興のために県内企業をコアに産学官金連携による、環境配慮型製品の研究開発・事業化の支援を実施してまいります。

グリーンイノベーションセンターの活動の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/support/support-31688/>



環境産業見本市開会の様子



展示ブースの様子

お問い合わせ 担当 北沢、常田、水内

TEL : 026-217-1634 FAX : 026-226-8838 E-mail : green-innv [at] nice-o.or.jp

8

NICE長野コラボネットでエア・ウォーター「地球の恵みファーム・松本」を視察

長野センター

NICE長野コラボネットは、令和6年11月26日に、[エア・ウォーター](#)「地球の恵みファーム・松本」にて、第3回例会として開催した地産地消エネルギーによる資源循環モデルの開発施設の視察会、及び講演会に28名が参加し、これからの脱炭素・循環型社会の実現に向けた取組についての理解を深めました。

視察会では、地域で発生する未利用のバイオマス資源を活用して発電を行い、発電時に排出される熱やCO2を、バナメイエビなどの養殖やトマトなどの栽培などに利用することで、エネルギーの地産地消と資源循環モデルの実現を目指す最新鋭のエコシステムを見学し、環境対策の重要性を再認識しました。

講演会では、エア・ウォーター(株)の草場俊氏から、「エア・ウォーターのグリーンエネルギーの取組紹介」と題し、自社開発のエコシステムの概要が紹介されました。また、須坂市などで大量の老木となったカラマツの間伐材の利用について、今後の研究対象として検討し、地球の困りごとに貢献したいなど活発な意見交換がなされました。

NICE長野コラボネットでは、先進企業、大学などの最新の研究事例紹介や視察会を通じて、産学連携による地域企業の新製品、新技術開発を支援してまいります。

NICE長野コラボネットの詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/support/support-2658/>



「スマート農業ハウス」視察の様子



講演会の様子

お問い合わせ 担当 高橋、市村

TEL : 026-225-6650 FAX : 026-225-6711 E-mail : nice-nagano [at] nice-o.or.jp

GX活動の支援

シリーズ1

グリーンイノベーションセンター

技術戦略ディレクター兼テクノコーディネーター
博士（工学） 北沢 俊二

県内企業の脱炭素化やグリーンイノベーションの創出に向けた活動を支援します。

GXとは、従来の石油などの化石資源由来の産業・社会構造を転換して、エネルギーや材料面からカーボンニュートラル・脱炭素社会の実現を目指す社会変革を意味しています。ご存じのように、国際協定のもと日本政府においても長野県においても、行政や事業者が目標を定め様々な活動が行われていますが、産業分野のCO₂排出量は、全体の約40%を占める状況にあります。当機構では県のゼロカーボン戦略に基づき、2022年4月の発足と同時にグリーンイノベーションセンターを創設し、県内ものづくり企業における脱炭素の様々な活動を支援するため、研究開発プロジェクトの創生や国内外の最新情報の提供の場として、視点が異なった研究会を設置して企業活動を支援しています。またCO₂排出量の算定支援や環境コミュニケーションに関する支援を実施しています。

本コラムでは、グリーンイノベーションセンターが主宰する研究会のご紹介と、特に材料の資源循環（サーキュラーエコノミー、以下「CE」という。）に係る研究会事業を通じた研究開発から事業化支援について、今までの支援事例や今後の支援戦略についてシリーズでお伝えしたいと思います。

□グリーンイノベーションセンターの研究会紹介

当センターでは、右表のように①～⑦の研究会を主宰しています。
①はバイオマス複合材料の開発と資源循環に関する実証・社会実装に関するプロジェクト創生及びCEの普及

（[経産省サーキュラーパートナーズ](#)に参画）（サーキュラーパートナーズ、以下「CPs」という。）

②は工業用途の定置式燃料電池を中心とした水素の製造～利活用に関する研究開発プロジェクトの創生と先進技術の共有

（山梨大学水素・燃料電池ナノ材料研究センターと連携協定）

③は長野県に優位性のある小規模水力発電の普及に係る技術課題、社会課題の解決に関する先進的情報収集と企業連携促進（信州大学工学部、県企業局・環境部との連携）

④は激変する自動車産業の最新技術・企業動向に係る情報共有（[経産省「ミカタプロジェクト」](#)の導入）

⑤は信州大学の未来のパワー半導体材料「酸化ガリウム」の研究シーズを社会実装する研究プロジェクト（参画企業固定）

⑥⑦は次世代パワー半導体及び実装デバイス、周辺電子機器の技術動向、社会動向等の習得

脱炭素の企業支援として①資源循環、②③エネルギー、④～⑦新産業創出の視点での研究会となっています。⑤以外は当機構ホームページ、メルマガ等から随時参加者を公募しています。

□CEへの取組

当機構では2022年8月、地域特有のバイオマス等廃棄資源（間伐木材等）を利活用したバイオマス複合材料の開発とそれらの循環の技術や仕組みを実証する「地域資源循環型複合材料研究会」をスタートしました。当初は県内企業10数社、信州大学繊維学部、市町村などが参画し、徐々に輪が広がっています。尖った新技術・新複合材料の開発を手掛ける企業が一堂に会することで化学反応が起き、想定外の企業連携も始まっています。経産省が2023年3月に「成長志向型の資源自律経済戦略」を策定し、CEを目指した産官学パートナーシップ（CPs）を立ち上げました。当機構も本研究会活動をもとに参画しています。

本年度、新たな転換と進化を目的として、研究会名称を「CEイノベーション研究会」に改称しました。次回のコラムでは、CEイノベーション研究会の活動内容（シンポジウム、フォーラムの開催、展示会出展等）をご紹介します。

- ①サーキュラエコノミーイノベーション研究会
- ②工業用燃料電池システム研究会
- ③小規模水力発電研究会
- ④環境品質モビリティ研究会
- ⑤信州酸化ガリウムデバイス化研究会
- ⑥次世代パワーエレクトロニクス研究会
- ⑦磁気エレクトロニクス研究会

NICEグリーンイノベーションセンター主宰の研究会

Go Zero Carbon By 2050

県内製造業による関連技術の開発や製品のライフサイクルによるカーボン排出量の可視化・削減等を支援します

グリーンイノベーション推進部（グリーンイノベーションセンター）

お問い合わせ

TEL. 026-217-1634 E-mail : green-innv [at] nice-o.or.jp

◆研究会の情報はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/support/support-31688/>



イベント・セミナーピックアップ

■「NICE長野コラボネット」・「新技術探索研究会」参加者募集

水・水素技術に関して信州大学の遠藤先生と、(株)パナソニックなどからご講演いただきます。

- ・期日 令和7年1月31日（金）
- ・会場 シャトレーゼホテル長野（長野市）
- ・定員 会場30名、オンライン50名
- ・締切 令和7年1月24日（金）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-58925/>

■「第3回NICEイノベーションセミナー」参加者募集

2050年カーボンニュートラルに向けた次世代型太陽電池の開発についてご講演いただきます。

- ・期日 令和7年2月7日（金）
- ・会場 core塩尻（塩尻市）
- ・定員 会場40名、オンライン（定員無し）
- ・締切 令和7年1月31日（金）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-57985/>

■「第4回工業用燃料電池システム研究会」参加者募集

信州大学のグリーン水素製造技術について、久富先生による講演と研究室見学を実施します。

- ・期日 令和7年2月20日（木）
- ・会場 信州大学工学部（長野市）
- ・定員 50名
- ・締切 令和7年2月3日（月）
- ・詳細 1月中旬にHPにて募集開始

■「研究開発等支援制度説明会及び成果報告会」参加者募集

国・県等の研究開発等に係る支援制度についての説明会、また、NICEのイノベーション創出事業成果報告会を開催します。

- ・期日 令和7年2月25日（火）
- ・会場 長野市内を予定
- ・定員 会場50名、オンライン（定員無し）
- ・締切 令和7年2月中旬
- ・詳細 1月中旬にHPにて募集開始

■「第3回テクノロジーチナガノ商談会」参加者募集

テクノロジーチナガノを活用した全国の発注企業とのビジネスマッチング商談会です。

- ・期日 令和7年2月25日（火）～3月7日（金）
- ・開催形式 対面個別商談またはオンライン商談
- ・参加発注企業 25社程度（予定）
- ・締切 令和7年1月24日（金）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-58896/>

■「第3回小規模水力発電研究会」参加者募集

小水力発電の事業化事例について(一社)CoIU設立基金の井上様にご講演いただきます。

- ・期日 令和7年2月6日（木）
- ・会場 ホテル信濃路（長野市）
- ・定員 50名
- ・締切 令和7年2月2日（月）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-59338/>

■「ソーシャル・ビジネス創業支援金オンライン事例報告会」参加者募集

支援金の採択を受けた方々から、事業内容や制度活用のポイント等を発表していただきます。

- ・期日 令和7年2月19日（水）
- ・開催形式 オンライン（Zoomウェビナー）
- ・定員 100名
- ・締切 開催当日まで受付可
- ・詳細 1月下旬にHPにて募集開始

■「EV分解・部品調査事業」事業報告会参加者募集

EV分解講座及び詳細調査の報告や分解部品を展示し、モーター、インバータ（日産・サクラ）の技術的な解説を行います。

- ・期日 令和7年2月21日（金）
- ・会場 専門学校 長野自動車大学校（長野市）
- ・定員 50名
- ・締切 令和7年2月13日（木）
- ・詳細 1月中旬にHPにて募集開始

■「第3回次世代モビリティ関連技術講座」参加者募集

電動化関連(xEV関連)の技術動向や県内製造業のEV部品参入の可能性についてご講演いただきます。

- ・期日 令和7年2月28日（金）
- ・会場 テクノプラザおかや（岡谷市）
- ・定員 会場40名、オンライン（定員無し）
- ・締切 令和7年2月21日（金）
- ・詳細 1月下旬にHPにて募集開始

■「第2回信州食品産業資源有効活用研究会」参加者募集

食品関連産業における低・未利用を有効活用するための技術開発や商品開発等を促進する研究会を開催します。

- ・期日 令和7年3月3日（月）
- ・会場 松本大学（松本市）
- ・定員 40名
- ・締切 令和7年2月下旬
- ・詳細 2月上旬にHPにて募集開始



「長野県デジタル化一貫支援サイト」を開設しました

国や県以外に県内の産業支援機関が実施するデジタル化の支援情報や導入により
省力化や生産性向上が期待できる汎用的なデジタルツール情報を掲載しています！

事業者のデジタル化に関するお悩みに、専門人材が相談対応する窓口も開設



お問い合わせ ITバレー推進部（信州ITバレー推進協議会）
TEL：026-217-1635 E-mail：it-valley [at] nice-o.or.jp
URL：<https://nagano-digital-portal.jp/>



産業DXコーディネーターにもご相談ください

デジタルによる業務の革新・改善
産業DX

「ファックスのやりとり。もう止めたいんですけど...」
「加工製品のばらつき...。どうしたらいいかわかる？」
「社内ネットワークのセキュリティを上げたいと文句たらたら...」
「熟練職人さんの引き継ぎが間近...。ITで何とかなら...」
「事務所のシステムと製造現場のシステムがばらばら...」
「オンライン会議のデータ管理...。うまく活用できない...」
「元請けから製造工程のデータ...。手間はばかりかかる...」



デジタルソリューションの提案や県内IT事業者とのマッチング支援・事業の伴走支援を行います。お気軽にご相談ください。

西村 元男 産業DXコーディネーター
角田 孝 産業DXコーディネーター



ご相談・お問い合わせ
TEL：026-217-1635 E-mail：dx [at] nice-o.or.jp
URL：<https://www.nice-o.or.jp/support/support-44648/>

